

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部	准教授	中野匡隆
最終学歴	学位	専門分野
中京大学大学院	修士（体育学）	運動生理学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

真に信頼して事を任せうる人格を育成する。

【目標】

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に則って、主体的な学びと経験を養うことのできる教育活動を目標とする。

【方針】

大人数の授業では、わかりやすい授業を目指す。

少人数の授業では、対話的な学びと課題解決の実践を中心とした授業を目指す。

【計画（方法）】

大人数の授業では、授業方法を工夫し、学生が興味を持てるように授業改善をしながら、わかりやすい授業を実施し、個々の理解度や進度に対応したフィードバックを心がける。そのためのオンデマンド資料を空いた時間でコツコツと作成、あるいはWEB上で見つける。少人数の授業では、学生に対して個別の対応をしながら、対話的な学びと課題解決の実践を中心とした運営を心がける。また、できる限り実践的な現場を用意する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

運動生理学、解剖生理学Ⅰ、トレーニング実習、人間健康学（2回）総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合野外活動実習Ⅰ（キャンプ）

（後期）

トレーニング実習、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、健康実践演習、総合野外活動実習Ⅲ（スノー）、東邦プロジェクトA（地域産学連携センター科目）

○教育方法の実践

Teamsを活用し、必要に応じて学生個々へ密に対応することで学生の理解を促進した。

○作成した教科書・教材

新たなものは、とくになし

○自己評価

例年、演習の授業の一部に取り入れているフィールドワークについて、良い点、悪い点がありつつも一定の効果を感じているが可視化が不十分なため、その点の解決に注力する。学生同士の縦（異学年間）と横（同学年間）のつながりだけでなく、ナナメ（学外の人たち）の関係も意識して切磋琢磨できるような運営を心掛ける。

II 研究活動

○研究課題

地域と連携した課外活動によるジェネリックスキルの向上および効果の分析、地域高齢者の健康等に関する研究、熱中症に関する研究、アウトドアに関する研究

○目標・計画

【目標】

口頭発表 1 回以上、論文発表 1 本以上、外部資金の獲得を目指す。

【計画】

地域と連携した課外活動によるジェネリックスキルの向上および効果の分析について、本学短研究所の短期研究の助成を受けて春学期中に新入生のデータを収集し、下記中に分析、論文化し、本年度中に東邦学誌への投稿をする。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫、中山佳美、森満、馬利中、中野匡隆、丸岡利則『高齢社会の健康と福祉のエッセンス』地域研究創造叢書 No32 唯学書房 2019年11月

（学術論文）

- ・加治木政伸、山下直之、稲葉泰嗣、中野匡隆、渡辺新大、刑部純平、松岡大介、松本孝朗『屋根付きテニスコートの WBGT 測定:一日射遮蔽効果の検証—』日本生気象学会雑誌 57(1)p17-23,2020
- ・山下直之、伊藤僚、中野匡隆、樊孟、松本孝朗『携帯型発汗計を使用したゲレンデスキー中の局所発汗量の測定』発汗学 26(1) p2-9,2019
- ・中野 匡隆『運動によって誘発される遅発性筋痛に対する人工炭酸泉浴の影響』東邦学誌 47(2), 101-107,2018

（学会発表）

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本体力医学会、日本生気象学会、一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会、日本運動疫学会

○自己評価

叢書にて、地域と連携した課外活動によるジェネリックスキルの向上および効果の一考察を発表することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

- 1) 学習者本位の教育と学習成果の可視化を実現させる。
- 2) 地域がキャンパスの教育を実現させる。

【計画】

- 1) 本年度から導入されるポートフォリオと作成中の自作の評価シートを学生と対話をしながらより良いプログラムを検討する。
- 2) 本年度から、地域産学連携センター運営委員となったため、昨年まで実施してきた学生との地域活動の更なる発展のため、できるところから組織的な取り組みになるように発展させていく。

○学内委員等

地域産学連携センター運営委員会

○自己評価

少しずつではあるが、地域連携を通じた学生の課外活動の発展、組織的な取り組みへの高次化、さらには、その効果として、ジェネリックスキルの調査を実施することができている。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

子供から高齢者までのサードプレイス事業

【計画】

子供から高齢者までのサードプレイス事業を学生とともにできるところから展開していく。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

スポーツ安全協会のスポーツ活動等普及奨励助成事業助成における「地域スポーツ・文化活動振興モデル拠点事業」に「幼少期を中心とした多様なスポーツ・健康関連計測機会の提供と、継続的な事業実施体制の整備」事業で採択を受けて取り組んだ。

○自己評価

助成に採択された事業である駅スポや名東区小学校区の地域運動会等のサポート活動だけでなく、シニアを対象とした教室等も学生とともに実施することができた。

Ⅴ その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

博士の取得のための準備をする

Ⅵ 総括

社会貢献活動は2024年度に引き続き、成果はあったが改善点等もあるので、よりよい取り組み

にしていきたい。一方で、研究や測定は、十分にできていなかったため、研究にも効率よく進行できるように環境を整えて、研究目標を達成したい。

以 上